

長野県スポーツ推進計画【概要版】 「スポーツが変える ～人・暮らし・地域・未来～」

長野県教育委員会事務局スポーツ課

第1章 計画策定の基本的考え方

○ 計画策定の趣旨

- ・近年、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化など、社会環境や価値観が急激に変化
- ・こうした現状やスポーツ界における新たな課題に対応するため、国では「スポーツ振興法」を50年ぶりに全面改正し、新たに「スポーツ基本法」を制定
- ・同法の趣旨及び本県におけるスポーツを取り巻く現状を踏まえ、今後の本県スポーツ行政を総合的に推進するための指針とする

○ 計画の性格（位置づけ）

長野県総合5か年計画及び第2次長野県教育振興基本計画に対応する体育・スポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策の推進計画とする

○ 計画期間

平成25年度～29年度（5か年）

第2章 計画の基本理念

『スポーツが変える ～人・暮らし・地域・未来～』

東日本大震災において被災者を励ましたスポーツ界の取り組みや、国際舞台で活躍するアスリートが子どもたちに与える夢と希望など、スポーツには限りなく大きなチカラが潜在する。

スポーツは、その魅力で人を惹きつけ、感動させ、行動を起こさせるチカラがある。

スポーツが、一人ひとりの暮らしや地域、その明るい未来を創造する牽引役となることを願い、基本理念を定めた。

第3章 計画の基本目標と施策の展開方策

<基本目標1> 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

【5年後のめざす姿】

長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育園、学校、地域のクラブ等に普及して、運動やスポーツをする元気な子どもが増加しています

（現状と課題）

- 本県の子どもは体力は全国と比べ、男子は同水準、女子は低い水準にある
- 運動・スポーツをする子どもとしない子どもの二極化は、特に高校生の女子において顕著
- 運動嫌いの子どもを減らすための体育授業の充実が必要

（施策の展開）

- 子どもの成長段階に応じて作成した長野県版運動プログラムの普及
- 教員の研修機会拡大による指導力の向上
- スポーツが苦手な子どもに対する多様なスポーツ機会の提供

（平成29年度までの達成目標）

- 体力合計点 49.1点(H22) ⇒ 目標 51点台
- その全国順位 31位(H22) ⇒ 目標 10位台

<基本目標2> ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【5年後のめざす姿】

県民だれもが、年齢、体力、技術、適性、興味・目的に応じて安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた取り組みが進んでいます

（現状と課題）

- 週1回以上スポーツに親しむ人の割合（スポーツ実施率）は、50%を下回っている
- スポーツの価値や必要性に対する理解はあるものの、行動に移せない状況がある
- 障害者が自主的かつ積極的にスポーツや運動を行うことができる環境の整備が必要

（施策の展開）

- ニュースポーツの普及など身近なところでスポーツに親しめる環境の整備
- 県等が主催する生涯スポーツイベントの内容の充実
- 障害者の自主的なスポーツ活動の継続・定着を支援

（平成29年度までの達成目標）

- 週1回以上運動・スポーツをする成人の割合 48.3%(H24) ⇒ 目標 65.0%
- 障害者の主なスポーツ大会、イベント、教室等の参加者数 14,731人(H23) ⇒ 目標 17,700人

<基本目標3> 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備

【5年後のめざす姿】

総合型地域スポーツクラブ、郡市体育協会、スポーツ少年団、公民館、その他スポーツクラブが、コミュニティの中心として、充実した活動を展開しています

（現状と課題）

- 種目や地域によっては指導者の確保が困難な状況がある
- 誰もが安全・快適に利用できるよう、必要な整備及び適切な維持管理が求められている

（施策の展開）

- 生涯スポーツ研修等による地域のスポーツ活動を支える指導者の育成
- スポーツ施設のバリアフリー化や耐震化の促進及び学校体育施設の積極的な開放

（平成29年度までの達成目標）

- 総合型地域スポーツクラブの加入者数 17,050人(H24) ⇒ 目標 25,000人

<基本目標4> 競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進

【5年後のめざす姿】

オリンピック・パラリンピックなど、国際舞台や国内大会で活躍する本県選手が増加しています

（現状と課題）

- 全国規模の大会での活躍に偏りがあり、県全体の競技レベルの底上げが急務
- 選手に対するスポーツ医学面からの支援が必要

（施策の展開）

- 国際舞台や全国規模の大会で活躍できる選手の育成強化
- 競技ごとの一貫指導体制の充実
- 競技者へのマルチサポートの推進

（平成29年度までの達成目標）

- 国民体育大会総合（天皇杯）順位 男女総合17位(H24) ⇒ 目標 15位以内
- SWANプロジェクトからメダリスト輩出 目標 1人以上(2018年 平昌冬季オリンピック)
- 国民体育大会（少年）・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会入賞数 169(人・団体)(H23) ⇒ 目標 200(人・団体)

<基本目標5> スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

【5年後のめざす姿】

選手が県内を拠点に活躍するとともに、引退後も指導に携わるなどの好循環が創出されています

（現状と課題）

- トップレベルの選手の技術や経験を地域のスポーツクラブ等で生かし切れていない
- 引退後のセカンドキャリアに向けた計画的準備や支援の不足

（施策の展開）

- トップレベルの選手が地域のスポーツ指導者として活躍できる場の創出
- 学業とのバランスや将来のキャリア形成にも配慮したジュニアアスリートへの支援

<基本目標6> 多面にわたるスポーツの果たす役割の活用

【5年後のめざす姿】

スポーツの有する多面的な価値が県民の間で共有され、健康づくりや県内外の交流促進など、スポーツが「元気な信州づくり」を牽引しています

（現状と課題）

- 地域密着型のプロスポーツチームが相次いで誕生し、注目が高まっている
- 登山やトレッキング、サイクルスポーツなどのアウトドアスポーツが人気
- 県民の運動習慣の定着が十分ではない

（施策の展開）

- 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」に基づく連携事業の推進
- 豊かな自然環境を活かしたスポーツ合宿の誘致等を推進
- 高齢者が無理なく身体活動に取り組めるスポーツ機会の拡充

第4章 施策推進体制の整備

<施策の推進体制と役割>

- 県や市町村、関係スポーツ団体、県民などが、それぞれの役割を認識し、お互いを尊重しながら協働して各施策を進めていく

<計画の検証・評価>

- 長野県スポーツ推進審議会などにおいて点検・評価し、必要に応じ施策や事業、達成目標を見直し、改善を図っていく
- 長野県総合5か年計画における政策評価の仕組みを参考に、県民や関係スポーツ団体などの視点に立った計画の推進となるよう、進捗管理の共有化を図る

スポーツ課施策体系図（平成28年度）

【5か年計画】

【個別計画】

【基本目標】

【事業名】

生涯を通じた学びと文化・スポーツに親しむ環境づくり

スポーツ推進計画

（スポーツが変える 人・暮らし・地域・未来）

学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

- 体育教科研究事業
- 学校体育実技認定・指導事業
- 運動部活動支援事業
- 長野県版運動プログラム普及事業
- 体育センター事業(学校体育関係研修事業)

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- 各種大会等共催負担金
- 信州チャレンジスポーツDAY開催事業
- 生涯スポーツ推進事業

住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備

- スポーツ活動指導者講習会開催事業
- 体育センター事業(生涯スポーツ関係研修事業)
- オリンピック施設起債償還費補助事業
- 白馬ジャンプ競技場運営事業
- [武道振興施設のあり方検討事業]
- 県営体育施設管理事業

競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進

- 競技力向上事業
- 国民体育大会選手団派遣費補助事業
- [国民体育大会開催事業費]
- 中学校高等学校体育大会助成事業
- 表彰関係費

スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

- スポーツによる元気な信州創出事業

多面にわたるスポーツの果たす役割の活用

- 冬季国際大会経費補助事業
- 国民体育大会冬季大会開催事業
- 北信越国民体育大会施設整備事業
- [スポーツによる元気な信州創出事業]

〔 管理運営費等 〕

- 長野県スポーツ推進審議会
- 体育総務費
- 長野県体育協会運営費補助事業
- 体育センター管理事業